



## 事業目的・概要等

### 背景・目的

- 従来の多くのビジネスでは、製造・販売者は幅広い消費者に好まれる製品を大量に生産し、消費者の需要を喚起して、大量に売り切ることが重視された。
- その結果、製品の使用・維持管理が適切になされないまま、エネルギー効率が悪化した製品が使われ続けることで使用時に大量のCO<sub>2</sub>が排出されるとともに、壊れた製品の大量更新により製造段階の大量のCO<sub>2</sub>排出や大量の廃棄、資源消費につながってきた。
- しかし、近年、IT技術の進展等によりシェアリングなど新たなサービスが生まれるとともに、エネルギー使用の監視・最適化などの低炭素化技術、易分解設計、リペア&リユース、交換部品からのレアメタル回収などの資源循環の技術が向上している。
- そこで、低炭素と資源循環の同時解決のため、IT等を活用して新たなサービス、技術を組み合わせた低炭素型資源循環モデルを構築するとともに、横展開に向けた施策を検討する。

### 事業概要

- (1) 低炭素型資源循環モデル構築事業 (480百万円)
- (2) 低炭素型資源循環モデル評価・展開事業 (20百万円)

### 事業スキーム



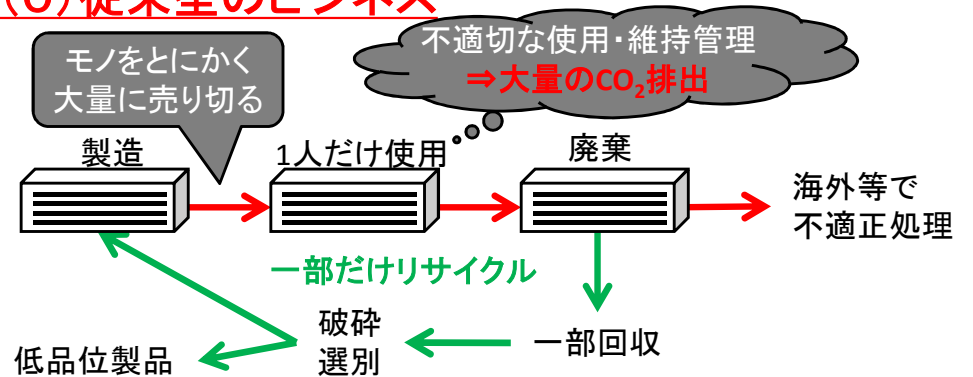
実施期間: 平成30~34年度

### 期待される効果

- ライフサイクル全体でIT等を活用して、例えば、個々の製品に装着したセンサーによりデータを収集し、維持管理、製品回収、リペア&リユース、シェア、レアメタル回収等を最適化するなどにより、**CO<sub>2</sub>排出量、天然資源投入量、廃棄物発生量を大幅削減。**
- 収集データをフィードバックし、**低炭素型資源循環モデルを向上。**

## イメージ

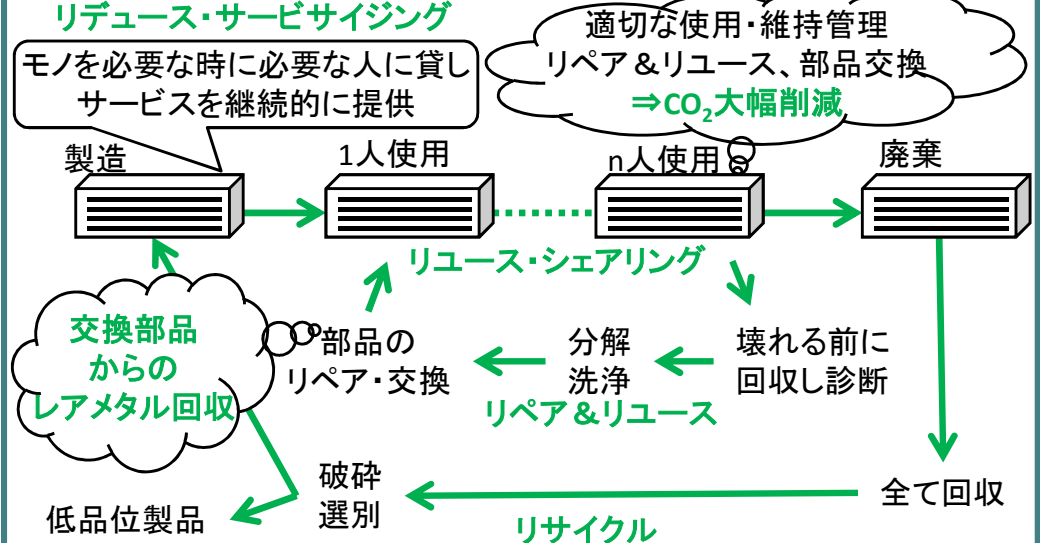
### (0) 従来型のビジネス



### (1) 低炭素型資源循環モデル構築事業

- 環境省がFS調査等を補助し、事業者は環境省に個品データを提供し、環境省が低炭素化と2Rの効果を総合的に評価

#### リデュース・サービスサイジング



### (2) 低炭素型資源循環モデル評価・展開事業

- 低炭素型資源循環モデルの構築手法を類型化し、全体を評価
- 廃棄物処理法・個別リサイクル法等との整合性、必要な技術、情報システムの要件等を整理し、低炭素型資源循環モデルの展開に向けた施策を検討。必要に応じて制度見直しについても検討。